

お釈迦様の目的は法華經を説くこと

布教部長 村松潮隆

絵 藤田由也

答へて云く、凡そ仏の出世は始めより妙法を説かんと思食しかども、衆生の機縁万差にして、
と、のをらざり(不調)しかば、三七日の間思惟し、四十余年の程こしらへおおせて、最後に
此妙法を説き給ふ。故に「若し但仏乗を讃めば衆生苦に没在し是の法を信ずること能わじ
法を破して信ぜざるが故に三悪道に墜ちなん」と説き、「世尊は法久しうして後要す当に真
實を説きたもうべし」とも云へり。此文の意は始めより此仏乗を説かんと思食しかども、仏法
の気分もなき衆生は信ぜずして定めて誘りをいたさん。故に機をひとしなに誘へ給ふほどに、
初めに華嚴、阿含、方等、般若等の經を四十余年の間説き、最後に法華經を説き給ふ時、四十
余年の座席にありし身子目連等の万二千の声聞、文殊、弥勒等の八万の菩薩、万億の輪王等、
梵王、帝釈等の無量の天人、各爾前に聞きし処の法をば「如来の無量の知見を失へり」と
云云。法華經を聞いては「無上の宝聚、求めざるに自得たり」と悦び給ふ。されば「我等
昔より來 數 世尊の説を聞きたてまつるに未だ曾て是の如き深妙の上法を聞かず」とも、
「仏希有の法を説きたもう昔より未だ曾て聞かざる所なり」とも説き給ふ。

【語句の意味】

仏の出世しゅっせは出家し悟りを開かれたお釈迦様は。

思食おぼしめしかどもお考えであつたけれども。

機縁きえん万差にしてお釈迦様の教えを受け入れる能

力りき（機）と仏縁が千差万別であるから。

と、のをらざり（不調）しかば調ととのつていなかっ

たから。

三七日さんしちじちの間思惟しゆいし二十一日間考えて。

こしらへおおせて準備を尽くして。

「若もし但ただ仏乗ぶつじやうを讃ほめば衆生しゆじやう苦くに没在もつざいし是この法ほを

信あずること能あたわじ法ほを破はして信あぜざるが故ゆゑに三さん

悪道あくどうに墜おちなん」もし最初さいしゆから法華經ほふけきやう（仏乗ぶつじやう）

を説いたならば、人々は理解に苦しんで法

華經ほふけきやうを信あじることができず、反かえつて法華經ほふけきやう

を否定して信あじないので地獄じじやく・餓鬼がき・畜生ちくじやう

の三悪道さんあくどうに落ちてしまふ」。

「世尊せそんは法ほふ久ひさしうして後か要かならず当まに真実まを説きたも

うべし」お釈迦様は、方便へんぽんの法ほふを長く説いた後

に、必ず真実ま（法華經ほふけきやう）を説かれる」。右

両文は、妙法蓮華經めうほつれんわふけきやう方便品第二の一節。

仏法ぶつほふの気分きふんもなきお釈迦様の教えを聞こうと言

う気持ちも無い。

定さだめて謗そしりをいたさんきつと謗そしるだろう。

機きをひとしなに誘しとへ給たまふほどに能力りき（機）を一

様に整ととのえられたから。

華嚴けげん、阿含あごん、方等ほうとう、般若はんゑ等の經きやうお釈迦様が悟り

を開かれてから華嚴けげん・阿含あごん・方等ほうとう・般若はんゑ經きやう

の順ついでに説かれたこと（この間が四十余年）。

四十余年しじゆねんの座席ざせきにありし四十数年、聴聞ちやうもん（座席）

していた。

身子しんじ目連もくれん等の万二千まんじゆせんの声聞しやうもんお釈迦様の十大弟

子こ、舍利弗しゃりほつ（身子）や目連もくれんを始めとする一

万二千まんじゆせん人の声聞衆しやうもんしゆ（説法を聞く人達）。

文殊もんじゆ、弥勒みろく等の八万はちまんの菩薩ぼさつ文殊菩薩もんじゆぼさつ・弥勒菩薩みろくぼさつ

を始めとする八万人はちまんにんの菩薩ぼさつ達だつ。万億まんおくの輪王りんおう

等らう、梵王ぼんおう、帝釈たいしやく等らう一兆いちぢやうの転輪てんりん聖王じやうおう・梵ぼん



天王・帝釈天王などの神々。

爾前に聞きし処の法をばにぜん法華経以前にぜんに聞いた説法では。

「如来の無量の知見を失へり」にょらい「お釈迦様の計り知れない智慧(悟り)を得られなかった」。妙法蓮華経

譬喩品第三の一節。

「無上の宝聚、求めざるに自ら得たり」むじょう

「この上ない宝の山が、求めずして自分の物になった」。妙法

蓮華経信解品第四の一節。

「我等昔より来、数、世尊の説を聞きたてまつるに未だ曾て是の如き深妙の上法を聞かず」われら「我々は昔から屡、お

釈迦様の説法を聞いているが、未だかつてこのように勝れた教え(法華経)を聞いたことがない」。妙法蓮華経譬喩品第三の一

節。

「ほとけ仏、けう希有の法を説きたもう昔より未だ曾て聞かざる所なり」 〓 「お釈迦様が、貴重な教えを説か

れた。昔より未だ誰も聞いたことの無い教えである」。妙法蓮華經分別功德品第十七の一節。

【現代語にしてみる】

お答え致します。大体お釈迦様が悟りを開かれて、すぐに法華經を説こうと思われたけれど、衆生の能力と仏との縁が千差万別で同じではないので、どうしようかと二十一日間、悩まれたすえ四十数年間、諸々のお経を説いて準備をめぐらせ最後に法華經を説かれました。そのことを方便品第二に「もし最初から法華經を説いたならば、人々は理解に苦しんで信じることができず、かえ反つて法華經を謗そしつてしまうから三惡道に落ちる」と言われ、又「お釈迦様は、方便の教えを長く説いて、後に必ず真実（法華經）を説く」と述べられています。こ

の文章の意味は、悟りを開かれた時から法華經を説こうと思われたけれど、教えを聞く気持ちも無い衆生は、信じないで謗そしることだろう。ですから人々の能力を一様に整えるために華嚴・阿含・方等・般若の順序で四十数年間説かれ、最後に法華經を説かれた。この時四十数年間お釈迦様の説法を聴聞した舍利弗や目連を始めとする一万二千人の声聞衆、文殊・弥勒など八万の菩薩達、一兆以上の転輪王・梵天・帝釈等無数の神々は、おのおの各々法華經以前に聞いた教えでは「悟りを開くことができなかつた」と言い、法華經を聞いて「この上ない宝が、求めずして自分の物になつた」と喜びました。そして「我々は昔からしばしば屢、お釈迦様の説法を聞いていますが、今までこのように勝れた教え（法華經）を聞いたことがない」と言い「お釈迦様は、貴重な教えを説かれた。昔より未だ誰も聞いたことの無い教えである」とも言っています。

— 続く —